

笑ってごらん

第 566 号 H. 28. 11. 15 発行

～今日のことば～

夢を叶えるには、

ずっと好きで居続けることです。

(声優・ミュージシャン：水樹奈々)

感謝道

◇◆ここ数日、大学の受験許可ならびに推薦願いの為に校長室を訪れる普通科3年生が多い。それぞれ志望理由を聴くと素晴らしい答えが返ってくる。「是非とも夢を実現させて欲しい」そう切に祈るのみである。「さて、私の大学受験はどんなだったろうか？」ふと思った。校長室を訪れる彼らのように明確な夢を持ち合わせてはいなかった。そもそも先々の職業など考えることもなく、ただ単に「化学が好き」という理由だけで理学部化学科を受験先に選んだくらいである。一浪の末、念願の理学部化学科に進学。思う存分化学漬けの毎日を送った。今回は、思い出を巡らせる中で強烈にフィードバックした、ある「事故」についてのお話である。一部グロテスクにも思える表現が含まれる為、気持ち悪くなりたくない人は、ここで読むのを止めて欲しい。 ◆大学化学科4年時、私は新しく着任されたY教授の研究室にいた。ある日、私はY教授から友人Tが使用したガラスフィルターを洗浄するよう命じられた。Tは重金属イオンを用いた実験を行っていたので、その実験に使用したガラスフィルターを綺麗にするには発煙硝酸を用いるのだ。ただ、当然のことだが、使用する硝酸は徐々に濃度を上げていき、最終的に発煙硝酸に到達するのであって、私のようにいきなり発煙硝酸を注入してはならない。そう、私は「やっちまった」のである。 ◆その瞬間、予期せぬ突発的な化学反応が起こり、爆発的に飛散した液体（ほぼ高濃度の発煙硝酸）は私の右目・右手首を襲った。幸いにもこの作業はドラフト内で、かつ、メガネの上から実験用ゴーグルをつけて行っていたために目に向かって飛んできた液体はゴーグルに付着。ただ、その後、液体はゴーグルの表面を伝って頬に落ちたのである。ほぼ同時のタイミングで液体は右手首にも付着。私が大声を上げたことに驚いた教授は瞬時に事故状況を把握、「全員、実験中断！ 西、早く洗え！ 失明するぞ！ A、西を手伝え！ 絶対に皮膚をこするな！」……これ以外にも矢継ぎ早に叫ばれる教授の的確な指示を聴きながら、「あ～、この教授の下で良かった…」と感じていた。そして、明らかに溶けていく右手首の皮膚が強く黄色く変色しているのを見て、「お～、これがキサントプロテイン反応か…」などと、今思えばものすごく余裕のあることを思っていた。一刻を争うというタイミングでの洗浄作業の流れの中で、私の中の時間は随分とスローになっていたのである。 ◆その後、大学近くにある総合病院で行われた「酸—アルカリ中和反応」を基にした洗浄治療。皮膚上に付着した酸をアルカリ溶液で中和していくのでハンパない痛みである。冷や汗が止まらなかった。治療で皮膚表面の酸は中和できていても、溶けた皮膚の深部に達した酸は完全には中和できていない。弱アルカリの軟膏を患部に塗り込み様子を見ることに。結果、その日以降2日間は皮膚のただれが進行し、まさに「お岩さん」状態であった。痛くて睡眠もとれなかった。都合、全治2ヶ月余り。事故当初見た目は最悪な状態であったが、ラッキーなことに神経には達していなかったのも、外傷だけで済んだのである。 ◆今振り返るだけでも強烈な思い出。こんなことがあれば、一般的には実験に対する恐怖心が芽生えてしまいそうであるが、私はそれまで以上に実験が楽しくなった。失敗によって実験にリスクが付きものであることを学べた。考えの浅い、無謀なことはしなくなった。いま、こうして教職に就き、校長という立場に立って思うことは、事故を起こした瞬間ならびにその後、Y教授には大変お世話になったということ。想像するに、大学内で、しかも自分の研究室で起こったことゆえ、事故報告も行われ、Y教授自身何らかの管理責任も問われたはずなのであるが、そのことについて私には一切話は無かった。とてもいい教授に出会えたと思っている。いい人との「出会い」、いい学びとの「出会い」。人生は「出会い」に満ちている。数々の出会いに感謝し、より良い未来を築いていこう。